

# マクロ経済学(経済原論I)

## 学期末試験問題(1999年度)

伊藤幹夫

持ち込み不可

学期中の講義に基づいて、以下の各問に答えよ。行数の制限にはきちんと従うこと。  
無意味に長く書いても減点の対象となるから注意すること。(図を用いた場合も行数制限をまもること。)

1. 次の用語を解説せよ。(それぞれ2行以内)
  - (a) 不変価格表示
  - (b) 投資乗数
  - (c) 生産関数
  - (d) 中央銀行
  - (e) 消費の相対所得仮説
2. いわゆる<sup>45</sup>度線図による均衡国民所得決定の理論は、経済活動をどのように抽象化して構築されたものか述べよ。(4行以内)
3. 恒常所得とは何かをきちんと定義し、恒常所得が利子率に依存することを示せ。また消費の恒常所得仮説と絶対所得仮説、それぞれに基づいた場合財政政策の効果はどのように異なって評価されるか述べよ。(行数自由)
4. 投資支出が利子率の減少関数、投資財価格の減少関数、賃金率の増加関数、資本減耗率の減少関数となる仕組みを説明せよ<sup>1</sup>。ただし、資本用役の価格ということにふれること。(8行以内)
5. 中央銀行が実施可能な金融政策の手段を列挙せよ。そうした手段が、市中の貨幣流通量を変化させる仕組みを、銀行制度に基づく貨幣とは何かに言及しながら説明せよ。(7行以内)
6. 物価水準の関数としての総供給関数の形状を定める要因と仕組みを簡潔に説明せよ。(6行以内)
7. 財政政策や金融政策の発動による総需要管理が、経済活動水準を制御できる場合と、できない場合、それぞれの前提となる状況を、総需要曲線と総供給曲線の形状で分類しながら、手際よくまとめよ。(行数自由)

<sup>1</sup> 試験問題用紙には、「投資財価格」とするところが「投資財」となっていた。解答時にこのミスプリントに気づいた者には、採点時に特段の配慮をした。